

43宇宙委第6号
昭和43年8月26日

殿

宇宙開発委員会委員長 鍋島直紹

第5回宇宙開発委員会定例会議の開催について

標記会議を下記により開催しますので、ご出席下さい。

記

1. 日 時 昭和43年8月28日(水)
午後2時～4時
2. 場 所 科学技術庁第2会議室
3. 議 題 (1) 昭和44年度宇宙開発関係経費の見積り方針
および概算要求概要
(2) その他

第5回宇宙開発委員会定例会議議事次第

1. 第1回宇宙開発委員会定例会議議事要旨の確認
2. 昭和44年度宇宙開発関係経費の見積り方針および概算要求
概要
3. その他

資 料

委5-1 第1回宇宙開発委員会定例会議議事要旨

委5-2 昭和44年度における宇宙開発関係経費の見積り方針
および概算要求概要について(案)

委 員 長

第1回宇宙開発委員会定例会議議事要旨

1. 日 時 昭和43年8月16日(金)
14:00~15:30
2. 場 所 科学技術庁 第2会議室
3. 議事次第 (1) 委員長挨拶
(2) 委員会設置経緯説明
(3) 委員会設置法等説明
(4) 委員長代理指名
(5) 参与の人選構想および幹事の人選方針の審議
(6) その他

4. 出席者

委員長	鍋島直紹
委員	山 泉 昌 夫
	関 義 長
	大 野 勝 三
	吉 識 雅 夫

関係行政機関職員

総理府内閣総理大臣官房審議室長(代理:内閣総理大臣官房審

議室 岡野英雄)

科学技術庁 事務次官

井上啓次郎

科学技術庁 官房長 馬場 一也
研究調整局長 梅沢 邦臣

文部省大学学術局審議官 渋谷 敬三 他

通商産業大臣官房審議官（代理：重工業局航空機武器課
伊藤 建一）他

工業技術院総務部長（代理：工業技術院総務課
山崎 宗重）他

運輸省大臣官房参事官（代理：官房技術調査官
清水 正義）

郵政省電波監理局審議官（代理：電波監理局技術調査課
植田 政司）他

郵政省電波監理局無線通信部長 石川 晃夫

建設大臣官房技術参事官（代理：大臣官房技術調査官
藤田 尚美）

事務局

科学技術庁研究調整局調整課長 藍原 義邦

” ” 宇宙企画課長 山野 正登

事務局 科学技術庁研究調整局宇宙開発課長 園山 重道
他

5. 配布資料

委 / - / 委員会設置法、委員会令、附帯決議

委 / - 2 宇宙開発審議会 4号答申

委 / - 3 参与の人選構想 (案)

委 / - 4 幹事の人選方針 (案)

6. 議事要旨

(1) 委員長挨拶

委員長挨拶ののち、「宇宙開発委員長談話」を發表することを了承した。

(2) 委員会設置経緯説明

事務局より宇宙開発委員会設置にいたる経緯を説明

(3) 委員会^設設置法等説明

事務局より「宇宙開発委員会^設設置法」、「宇宙開発委員会令」および「宇宙開発委員会設置法案に対する附帯決議」（衆議院科学技術振興対策特別委員会、参議院内閣委員会）を説明
これに対して次のような質疑応答があつた。

○ 第2条第1項第3号を見ると宇宙開発委員会が各省の経費を自ら作成し決定するというように見えるが、予算の見積りは各省がそれぞれ行なうものであつて、宇宙開発委員会のスタッフでは予算の作成作業などは出来ない。

また、第2条第1項第3号は同項の第2号に含まれるものと解されるがどうなのか。

(答) 財政法に規定されている経費の見積り権限は、各省庁が行なうものであり、委員会がこれを行なうということではない。第2条第1項第3号の趣旨は、当委員会が国家行政組織法の第8条機関として、各省庁の宇宙開発関係経費の見積りについて企画し、審議し、その決定に基づき、内閣総理大臣に意見を述べることによつて、政府予算案に委員会の決

定に反映させようというものであり、実際には、各省庁の宇宙開発予算要求案を検討し、これに対して意見をのべることになる。

- 第2条第2項第2号の「施設および設備の開発」は同項第1号に含まれるのではないか。

(答) 第2条第2項第2号の「施設及び設備の開発」は打上げ及び追跡に関するものであり、これに対して同項第1号の「施設及び設備の開発」は人工衛星等の開発に関するものであつて、それぞれ別個のものである。

- 国会の「宇宙開発委員会設置法案に対する附帯決議」には「宇宙の開発」とあり、「宇宙開発委員会設置法」には「宇宙の開発」と、「宇宙開発」とがあるか使い分けはどうか。

(答) 「宇宙開発」は第2条第2項に定議されたとおりであり、「宇宙の開発」は「宇宙開発」より広義の意味として使われている。

- 大学における研究および開発はこの委員会の所掌に入るのか。

(答) 大学における研究および開発のうち、科学衛星および科学衛星打上げ用ロケットの開発等は、第2条第2項に該当するので、委員会の所掌事務に含まれる。

(4) 委員長代理指名

委員長代理には山県委員が指名された。

(5) 参与の入選構想および幹事の人選方針審議

- 事務局より宇宙開発委員会参与の入選構想(案)につき説明ののち、委員長より参与についてはこの構想に基づく具体的な人選案を事務局から提出させ、次の委員会で検討したい旨が述べられ、了承された。
(7.23.24 早稲田会)
- 事務局より宇宙開発委員会幹事の人選方針(案)につき説明ののち、了承された。

以上

昭和44年度における宇宙開発関係経費の見積り方針および概算要求概要について(案)

昭和44年度における宇宙開発関係経費の見積り方針および概算要求概要はヒリあえず次のとおりとする。

なお、本件については、ひきつづき審議を進め、今後当委員会において決定する宇宙開発計画を勘案して10月中に最終的な決定を行なうこととする。

I 基本方針

昭和44年度、宇宙開発関係経費の見積りを行なうにあたっては、最近の世界における宇宙開発の動向にかんがみ、我が国としても今後これに本格的に取り組む必要のあることを認識し、宇宙開発審議会から号答申に述べられた宇宙開発計画の基本的事項およびその後における内外の情勢の変化を勘案し、次の計画に基づき行なうものとする。

✓ 実用実験衛星については、通信分野における実験衛星として、昭和46年に電離層観測衛星を、また昭和48年度に実験用静止通信衛星を完成することを目標として開発するとともに、航行衛星、気象衛星、測地衛星等の開発のため、当面搭載技術地上利用施設等の開発を進めることとする。

実用実験衛星打上げ用ロケットについては、昭和46年完成を目標に静止衛星打上げ用ロケット(Nロケット)につはき得る中間段階のロケット(Qロケット)を開発し、これにより電離層観測衛星を打ち上げることにし、さらにロケット開発を進め、昭和48年度完成を目標にNロケットを開発し、これにより実験用静止通信衛星を打ち上げることにする。

2. 科学衛星については、前年度に引き続き、昭和44年度においても電波、天体放射線、粒子線等の観測を目的とする科学衛星を飛ばし、これを打ち上げることにする。

科学衛星打上げ用ロケットについては、引き続きMロケットの信頼性向上のため、開発を進める。

3. 人工衛星および人工衛星打上げ用ロケットの用飛および打上げに必要な施設設備の整備を進めるとともに、人工衛星追跡網の強化をはかることにする。また、宇宙開発関連技術についても研究開発を推進することにする。

4. わが国の宇宙開発の本格化に伴い官学民が一致協力して開発を行なうための新設等必要な体制の整備を行なうことにする。

II. 宇宙開発関係経費の概算要求概要

以上の方針に基づき、昭和44年度各府庁、宇宙開発関係概算要求（案）について、調整を行なった結果は別表のとおりであり、その総所要経費はロケットおよび人工衛星の開発に必要な経費をはじめ、行政費までを含めて、000億円、国庫債務負担行為額 000億円である。

この経費によって行なう主な事業は次のとおりである。

1. 実用衛星関係

(1) 通信関係の実用実験衛星の開発

電離層観測衛星については、前年度に引き続き搭載探査器の開発を行なうとともに、衛星の試験モデル、構造試

実験モデル等を試作し、試験を行なう。

実験用静止通信衛星については、ミリ波帯中継器、姿勢制御システム等の開発を行なう。

(2) その他の実用実験衛星の開発等

気象、航行等その他の実用実験衛星については、気象衛星搭載用放射観測装置、航行衛星搭載用電子装置^用利用者^用装置等の開発を行なう。

各種の人工衛星に共通な技術については、姿勢制御技術、温度制御技術等の開発を行なう。

(3) 実用実験衛星打上げ用ロケットの開発

Qロケットについては、昭和43年度の基本設計の結果に基づき、詳細設計および各部の試作を行ない、性能確認のため地上試験を行なう。また、Qロケットに必要な液体ロケットを開発するためのLS-Cロケットおよび誘導制御技術確立等のための小型ロケットの飛しよう実験を行なう。

Nロケットについては、関連研究を進めるとともに概念設計を確立する。

(4) 打上げ場および地上試験施設設備の整備

実用実験衛星の開発に必要な大型試験設備については、昭和44年度からスペースエレベーター、振動試験設備、加速度試験設備等の整備を進める。

Qロケットの打上げ施設設備^{および}地上試験~~および~~飛しよう~~および~~実験に必要な地上燃焼試験設備について整備を進める。

2. 科学衛星開発

(1) 科学衛星の打上げ

M-4S ロケットによりオノ号およびオズ号科学衛星を打ち上げる。

(2) 科学衛星の開発

オズ号およびオス号科学衛星の開発を行なうほか、オ4号科学衛星(試験用)を試作する。

(3) 科学衛星打上げ用ロケットの開発

オズ号科学衛星打上げ用ロケットとして、M-4S ロケットを製作する。

オス号科学衛星打上げ用ロケットとして M-4SC ロケットを開発する。このため、これに必要な2次噴射推力方向制御(TVC)装置等を開発し、M-4SC ロケットにより飛しよう実験を行なう。また、TVC試験および超高層観測を行なうためのM-5Cロケットを開発するとともに地上燃焼試験、飛しよう前機能試験および予備試験を行なう。

(4) 地上施設設備の整備

地上設備については、科学衛星開発として光学およびレーザトラッキング装置、安定制御試験装置等[△]Mロケット関係としてMロケット高速データ受信装置等を整備充実する。

3 人工衛星追跡網の強化

人工衛星については距離および距離変化率方式による追跡装置等実用実験衛星および科学衛星追跡のための施設設備

の開発および整備を行ない、人工衛星追跡網の強化をはかる。

4. 体制の整備

(1) 宇宙開発を本格的に推進するため、宇宙開発委員会を強化し、宇宙開発局の新設を行なうとともに、宇宙開発推進本部を発展的に改組して宇宙開発事業団を新設する。

(2) 宇宙開発関係の研究を促進するため、関係国立試験研究機関の充実をはかる。

5. その他の主要事項

(1) 宇宙開発関連技術の研究の推進等

高信頼性電子部品、光学測定技術等宇宙開発に関連する基礎的研究を推進するとともに、これらの研究が相互間に調和を保ちつつ開発を進めうるよう措置する。

(2) 打上げ実験施設の円滑化

種子島宇宙センターおよび鹿児島宇宙空間観測所におけるロケット打上げ実験の遂行にあたっては、周辺漁業関係者の協力が必要であるので、漁業振興対策をもつてその円滑化をはかる。

(3) その他

宇宙開発の本格化に伴い、人材養成、広報啓発、国際協力等の諸事業はますますその重要性を増しつつあるので、これらを強力に推進する。

昭和44年度宇宙開発関係経費の概算要求概要

(単位 千円)

省庁	担当機関	事項	43年度予算額	44年度概算要求額	備考
科学技術庁	宇宙開発局	宇宙開発委員会経費	10,446		
		その他	15,217		
		小計	25,663		
	航空宇宙技術研究所	宇宙開発関係経費	④ 326,250 670,791		
	宇宙開発推進本部	一般管理運営費 (3ヶ月分)	④ 1,547,800 2,574,414		43年度予算額については総予算額
	宇宙開発事業団	ロケット開発経費 人工衛星開発経費 ロケット打上げ経費 人工衛星追跡経費 その他			
	小計	0			
	計	④ 1,874,050 3,270,868			
文部省	東京大学	科学衛星開発経費	④ 530,000 1,302,655		
	宇宙航空研究所	Mロケット開発経費	810,432		
	計	④ 530,000 2,113,087			

省 庁	担 当 機 関	事 項	43年度予算額	44年度概算要求額	備 考
通商産業省	工業技術院	試験研究所特別研究経費	113.000		
		計	113.000		
運輸省	気 象 庁	気象業務への導入のための研究経費	9.228		
	海上保安庁	測地業務への導入のための施設整備経費	51.428		
	電子航法研究所	恒星航法システムの開発経費	7.863		
		計	48.519		
郵政省	電波研究所	電離層観測衛星の開発経費 実験用通信衛星の開発経費			
		計	④ 498.136 599.190		
建設省	国土地理院	人工衛星観測経費等	4.763		
		計	4.763		
合 計			④ 2,902,186 6,149,427		

ロケットカレンダー

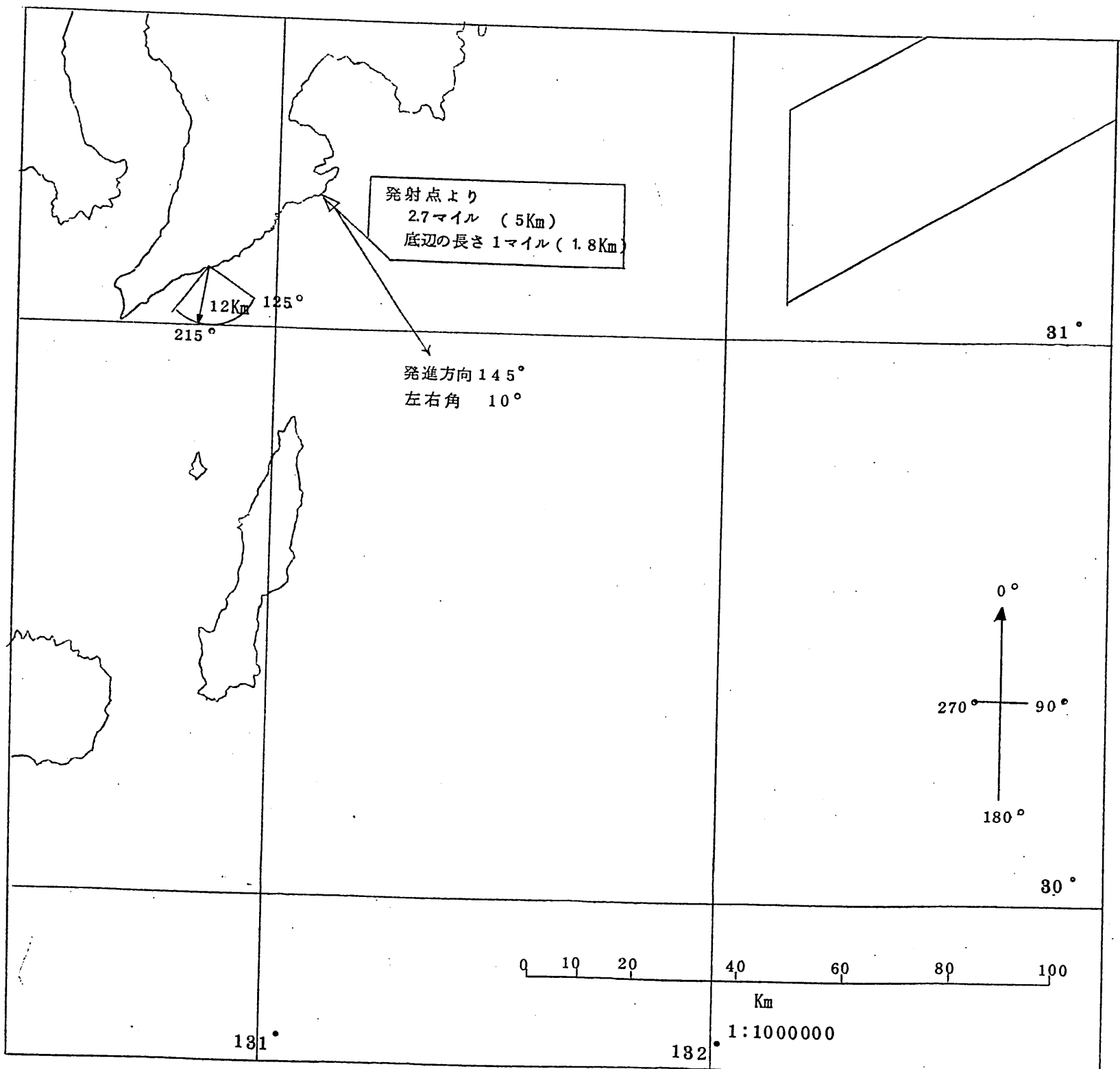
昭和43年9月

1 日時：昭和43年9月10日火曜日

延期の場合 9月12日まで

2 打上げロケット

機 種	打上場所	打上方向	落下予定時刻	実 験 目 的	備 考
ST-160F-1	内之浦	145°	11:00~11:30	フレヤの空力安定性の試験	
ST-160F-2	"	"	14:00~14:30	"	

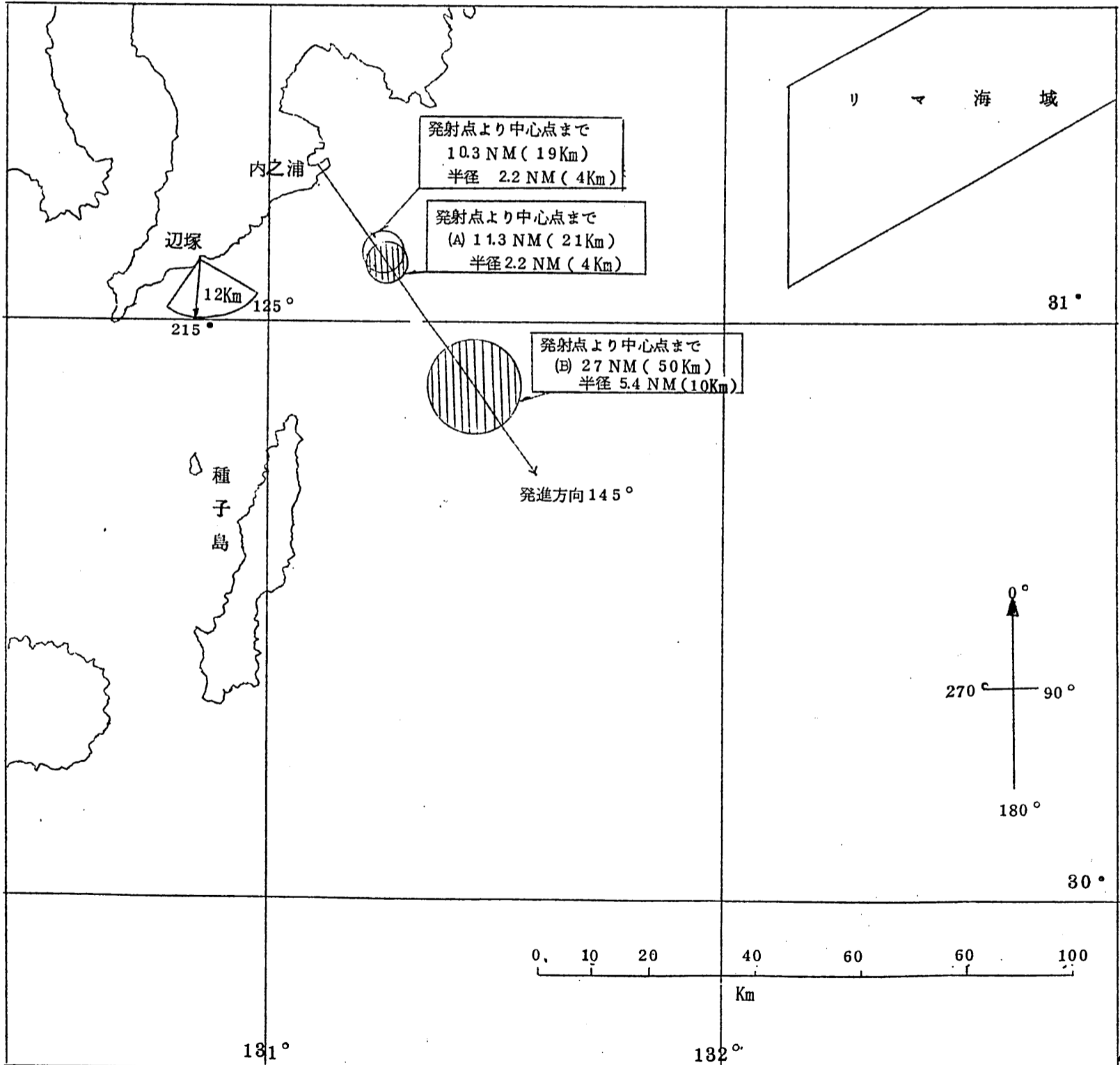


1 日時：昭和43年9月12日木曜日

延期の場合 9月14日まで

2 打上げロケット

機種	打上場所	打上方向	落下予定時刻	実験目的	備考
SO-160-1	内之浦	145°	11:00~11:30	推力中断装置の機能試験	(A)第1段 (B)第2段
SO-250B-1	"	"	14:00~14:30	おける推力中断装置の試験	

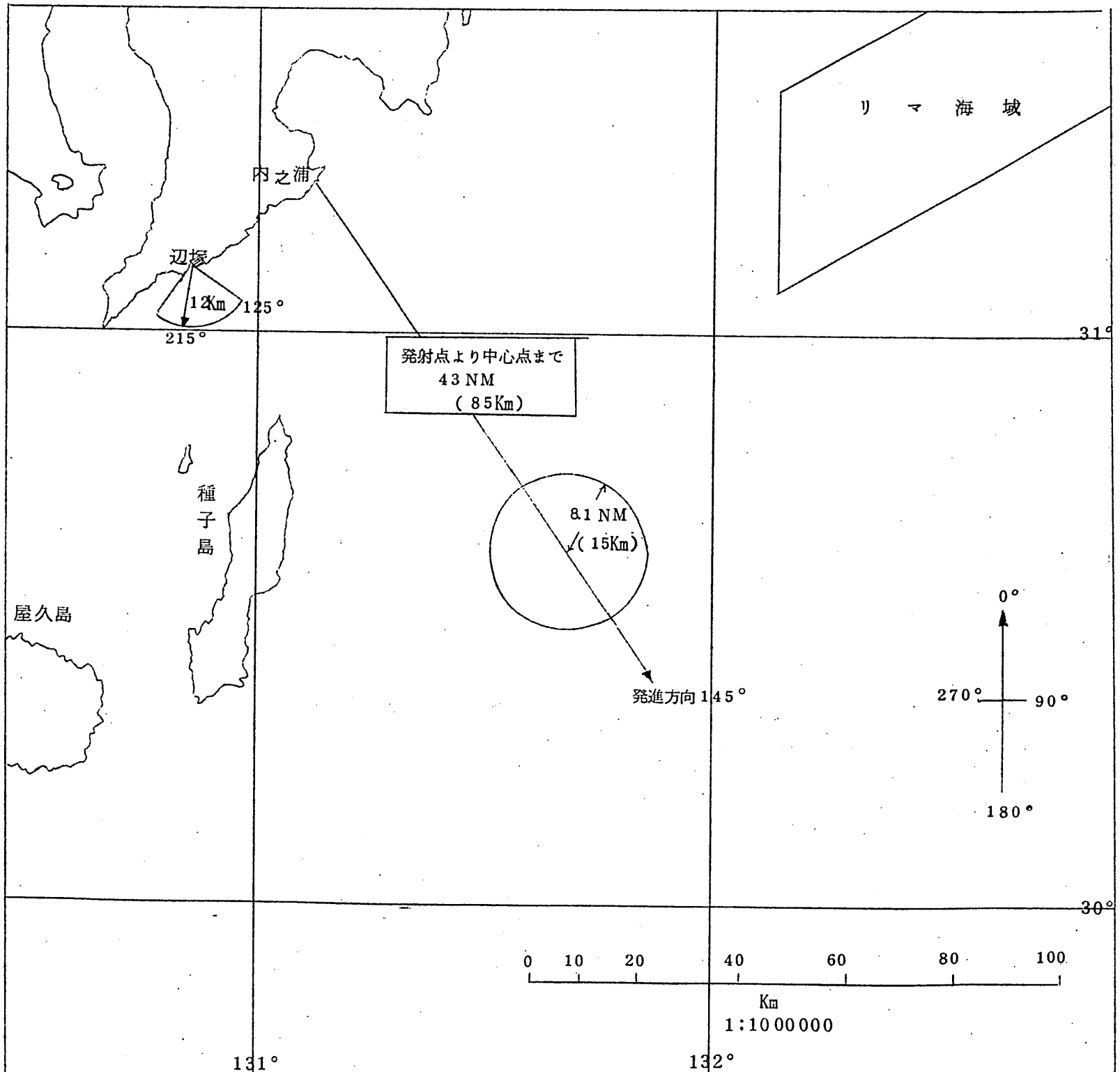


1 日時：昭和43年9月14日土曜日

延期の場合 9月16日まで

2 打上げロケット

機種	打上場所	打上方向	落下予定時刻	実験目的	備考
S-160-1	内之浦	145°	10:00~10:30	イオン密度および電導度の観測	
S-160-2	"	"	13:00~13:30	大気電場の観測	
IT-160-3	"	"	16:00~16:30	大気電離量の観測	

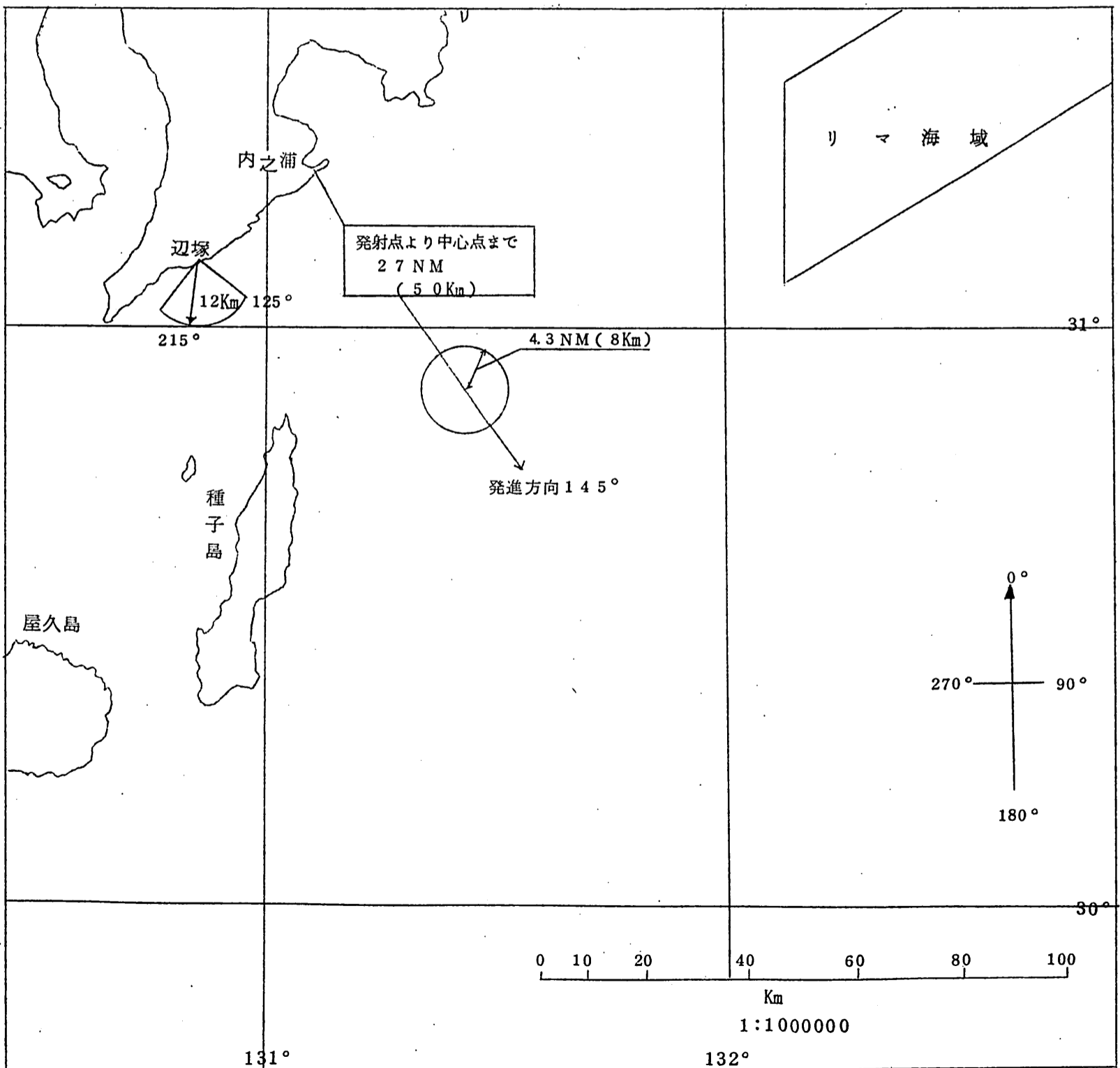


1 日時：昭和 43 年 9 月 15 日 日曜日

延期の場合 9 月 16 日まで

2 打上げロケット

機 種	打上場所	打上方向	落下予定時刻	実 験 目 的	備 考
MT-135-36	内之浦	145°	11:00~11:30	気温・風の観測	
MT-135-37	"	"	14:00~14:30		

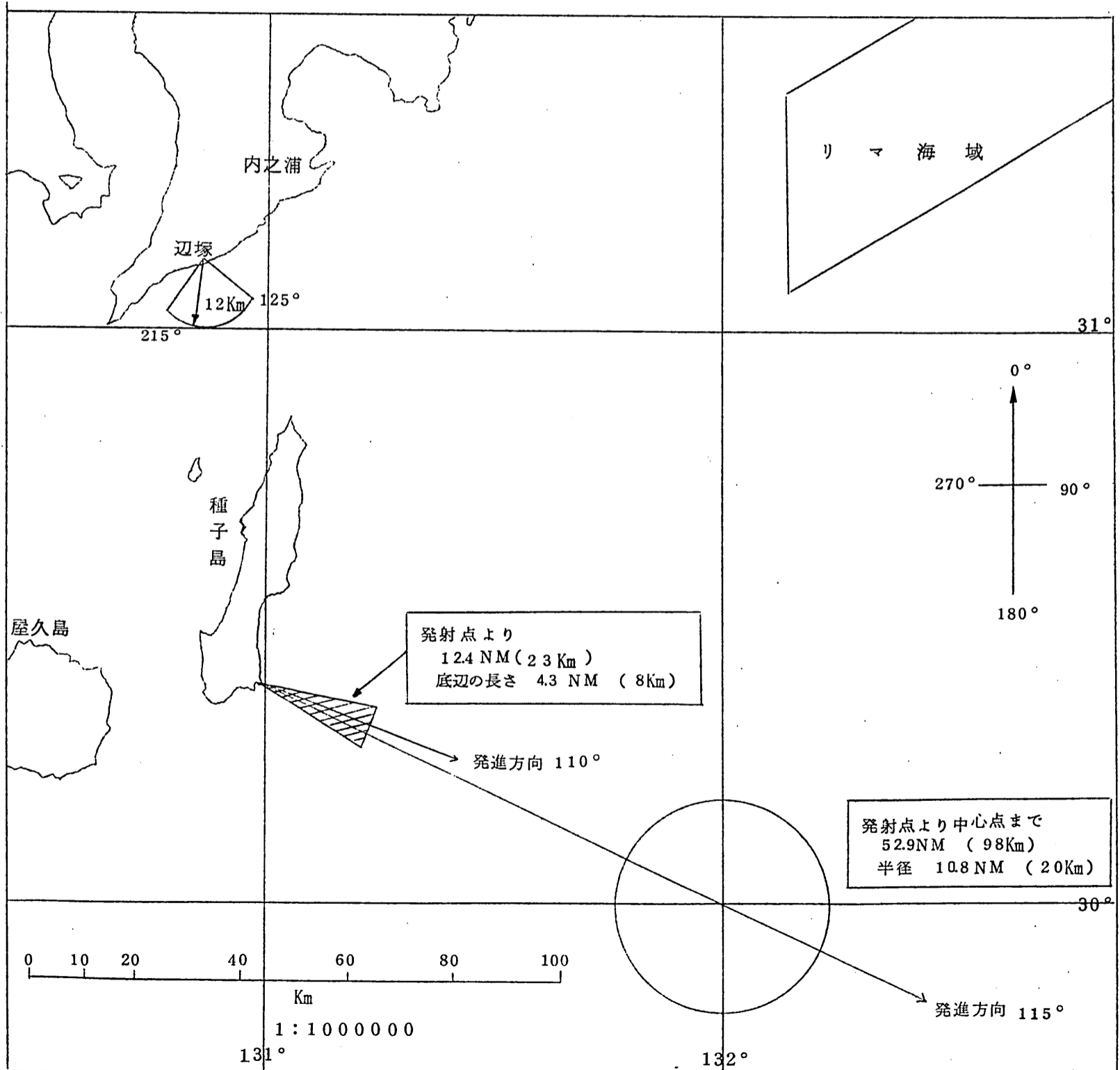


1 日時：昭和43年9月17日火曜日

延期の場合は9月19日まで順延

2 打上げロケット

機種	打上場所	打上方向	落下予定時刻	実験目的	備考
SB - II A	種子島	115°	10:30~11:00	高度約60Kmまでの気象観測	
LS - C - D		110°	14:00~14:30	LS-Cに使用するブースターの性能および分離機能確認	

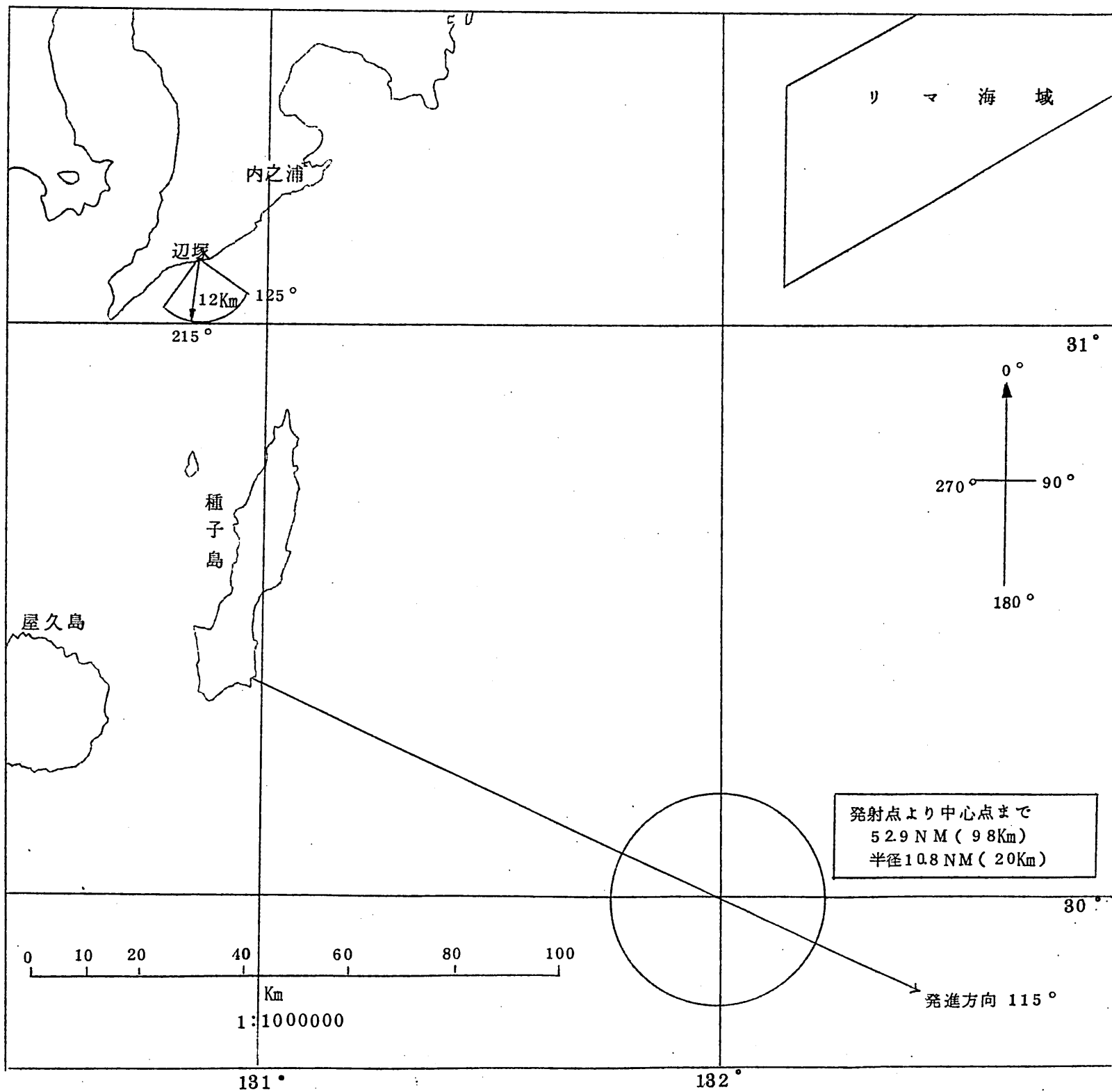


1 日時：昭和43年9月18日水曜日

延期の場合は 9月19日まで順延

2 打上げロケット

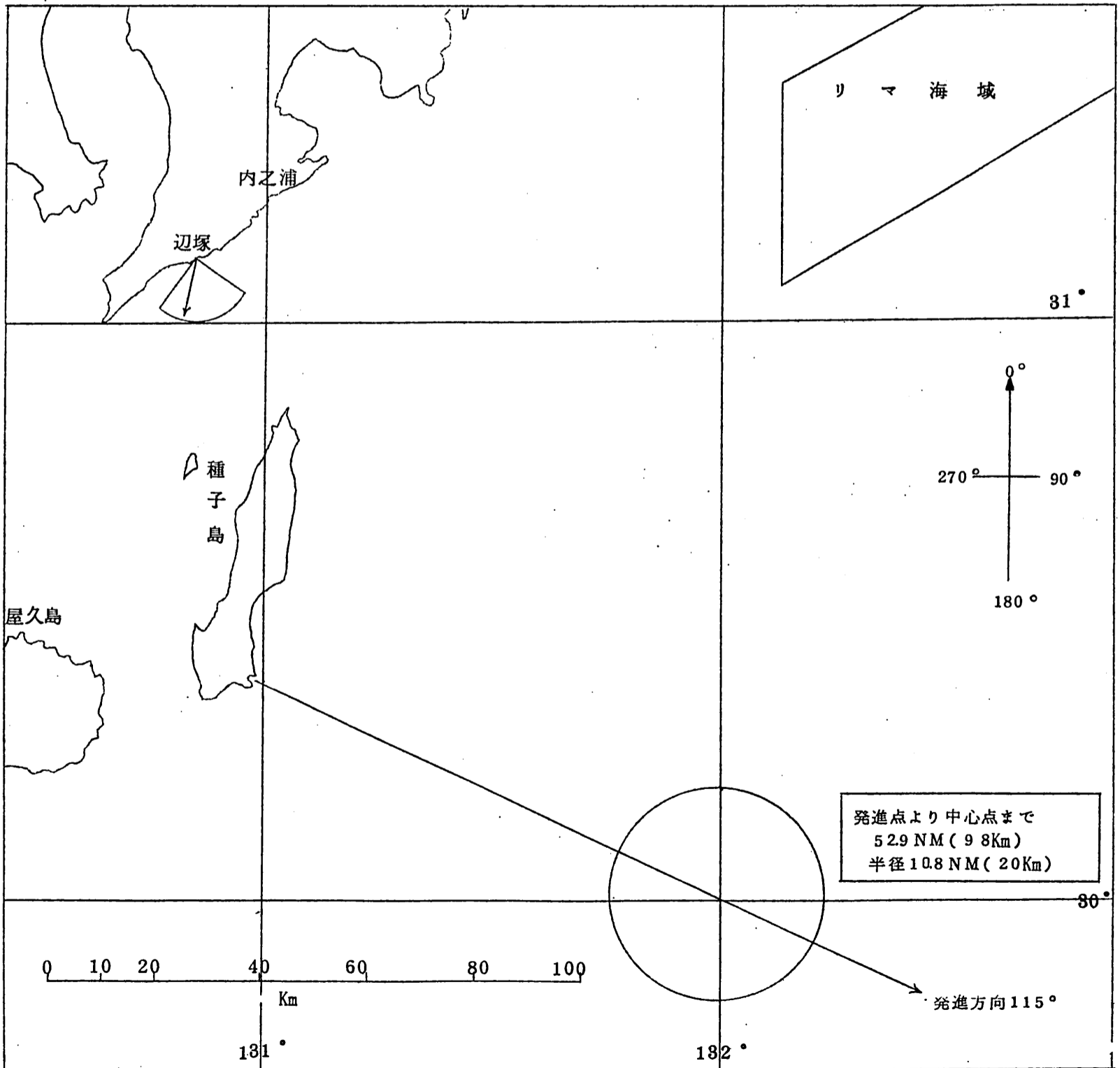
機種	打上場所	打上方向	落下予定時刻	実験目的	備考
NAL-16-H	種子島	115°	10:30~11:00	固体ロケットの高性能化に必要なデータを得るため	
SB-III	"	"	14:00~14:30	エンジン部を切離し、パラシュートで落下させる	



1 日時：昭和 43 年 9 月 19 日 木曜日

2 打上げロケット

機 種	打上場所	打上方向	落下予定時刻	実 験 目 的	備 考
NAL-16-H	種子島	115°	10:30~11:00	固体ロケットの高性能化に必要なデータを得るため	



昭和44年度宇宙開発関係経費の概算要求概要

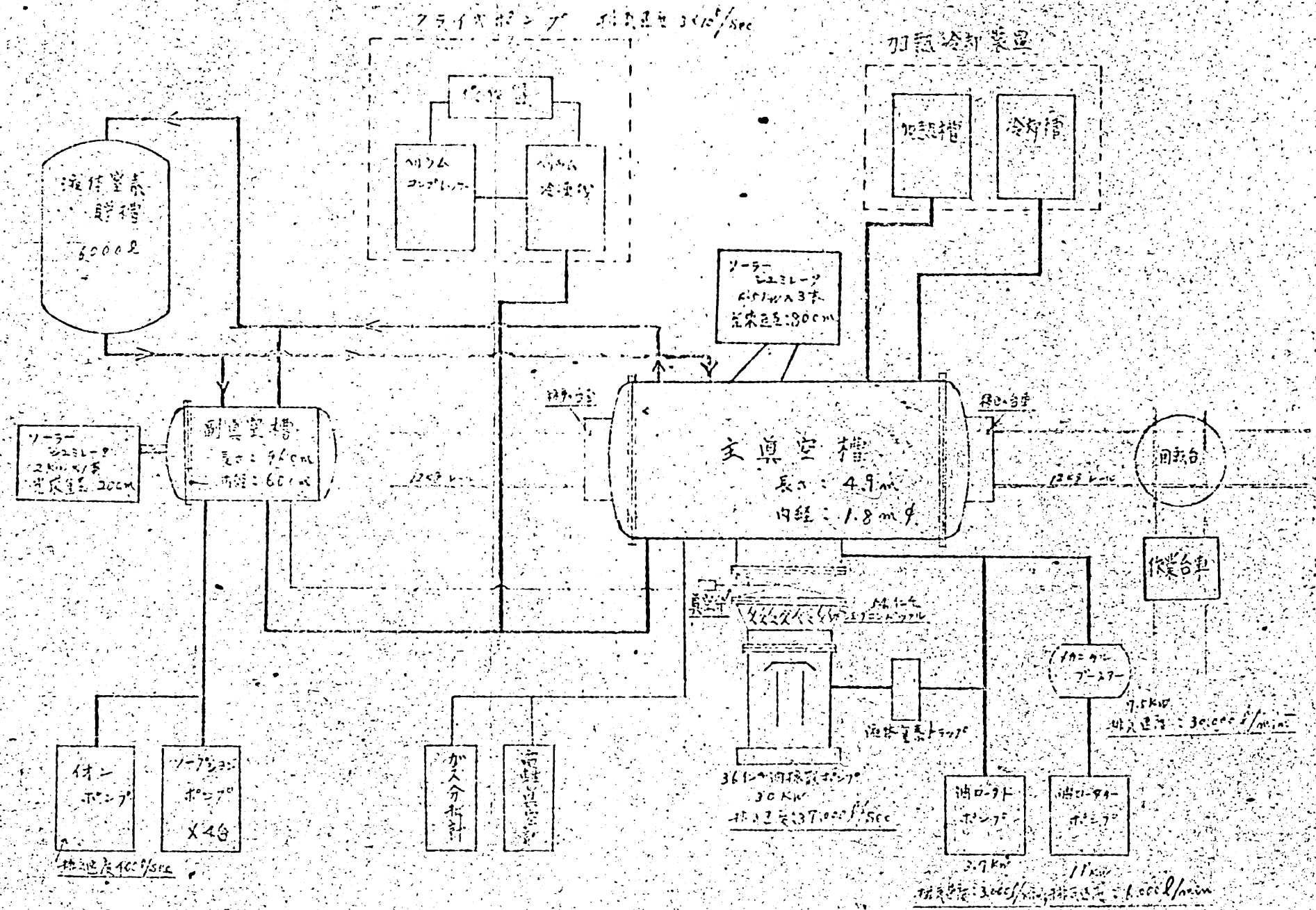
(単位千円)

省 庁	担 当 機 関	事 項	43年度予算額	44年度概算要求額	備 考
科	宇宙開発局	宇宙開発委員会経費	10446	37606	
		その他	15217	746800	
		小 計	25663	784406	
学	航空宇宙技術研究所	宇宙開発関係経費	① 326250 670791	1103554	
	宇宙開発推進本部	一般管理運営費(3ヶ月分)	① 1547800 2574414	51138	43年度予算額については総予算額
技 術 庁	宇宙開発事業団	ロケット開発経費		① 6643598 4204059	
		人工衛星開発経費		① 1508000 357842	
		ロケット打上げ経費		① 4689702 3169872	
		人工衛星追跡経費		① 417000 297543	
		その他		650684	雑収入65355を含む
		小 計		① 13366265 8680000	
		計	① 1874050 3270868	① 13366265 10619098	

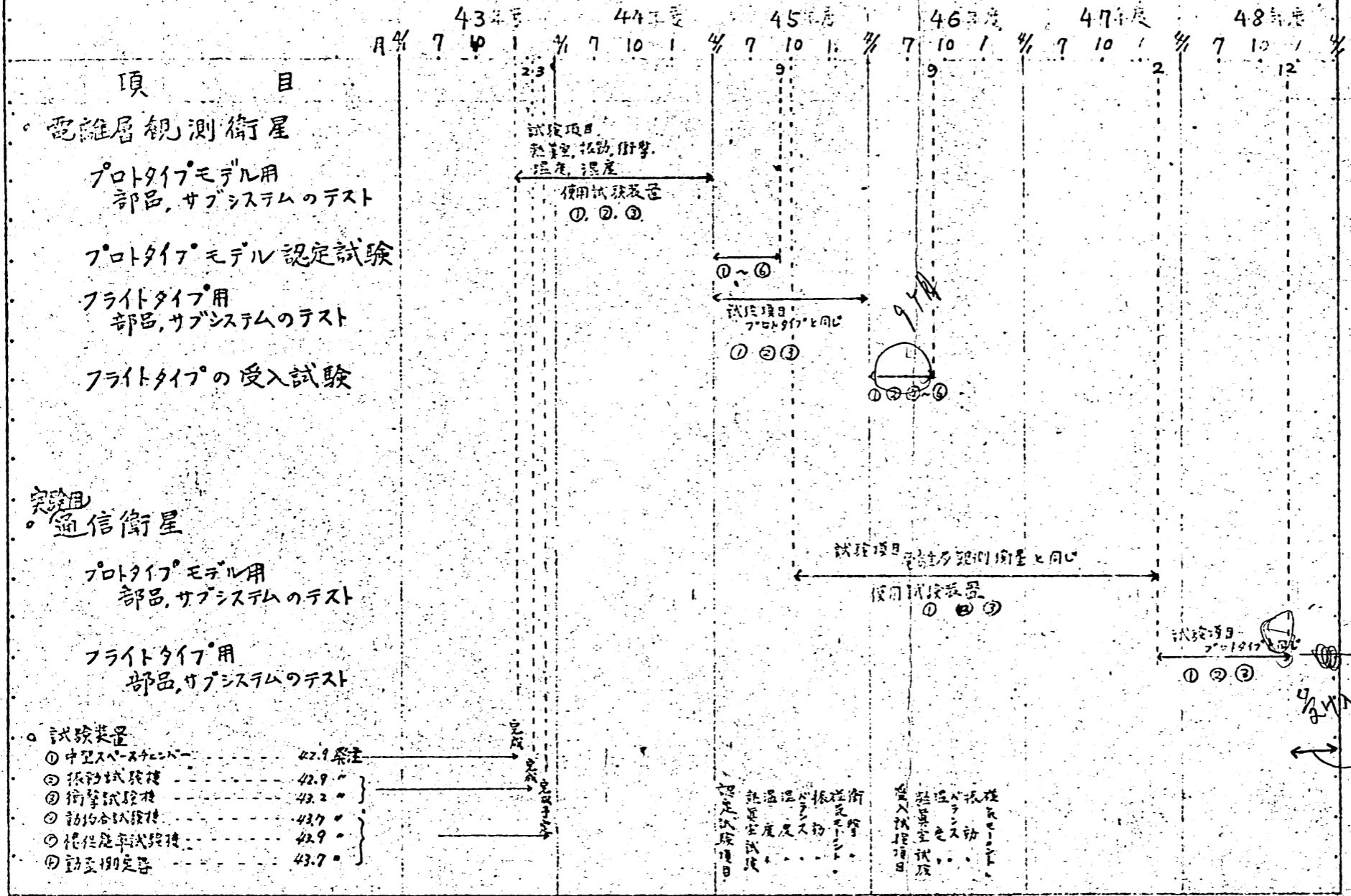
省 庁	担 当 機 関	事 項	43年度予算額	44年度概算要求額	備 考
文 部 省	東京大学 宇宙航空研究所	科学衛星開発経費	⑤ 530.000 1.302.655	⑤ 653.500 1.443.160	
		M ロケット開発経費	810.432	⑤ 413.500 1.252.158	
		計	⑤ 530.000 2.113.087	⑤ 1.067.000 2.695.318	
通 商 産 省	工 業 技 術 院	試験研究所特別研究経費	113.000	127.000	
		計	113.000	127.000	
運 輸 省	気 象 庁	気象業務への導入のための研究経費	9.228	14.056	
	海 上 保 安 庁	測地業務への導入のための施設整備経費	31.428	238	
	電子航法研究所	衛星航法システムの開発経費	7.863	37.394	
		計	48.519	51.688	
郵 政 省	電 波 研 究 所	電離層観測衛星の開発経費		⑤ 680.264 599.701	
		実験用通信衛星の開発経費		⑤ 144.000 85.000	
		計	⑤ 498.136 599.190	⑤ 824.264 684.701	
建 省 設	国 土 地 理 院		4.763	4.069	
		計	4.763	4.069	
合 計			⑤ 290.2186 6.149.428	⑤ 15.257.529 14.218.874	

科学技術庁については8月27日 現在 その他各省については8月20日 現在
運輸省については8月16日 現在

中型熱真空環境試験装置



中型熱真空環境試験装置および機械的環境試験装置の使用計画



DIRECT COPY SYSTEMS

A4 X 100

受入試験
 受入試験